

笑顔いっぱいの居場所づくり
これから サロン が面白い！

平成 28 年度

ふれあい・いきいきサロン 全国研究交流会 in 埼玉 報告書

12月4日(日) 10:00 ~ 15:50



主催

平成 28 年度ふれあい・いきいきサロン全国研究交流会 in 埼玉 実行委員会

社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会

社会福祉法人全国社会福祉協議会

「笑顔いっぱいの居場所づくりを目指して ～これから期待されるサロン活動とは～」

ルーテル学院大学 学事顧問・教授 市川 一宏 氏

私たちが直面している課題

- (1) 人口減少と過疎高齢化の問題。
- (2) 貧困の問題。現役世代の非正規雇用、失業が増え、結果として子どもに及ぶ貧困の悪循環をどのように断ち切るか。
- (3) 家庭の養育・扶養機能の低下、家族相互の役割の曖昧さ等による孤立死、虐待、非行、自殺の問題。
- (4) 身体の障害や老齢による閉じこもりの問題。
- (5) 保護者側の望まぬ妊娠、マタニティブルーズ、精神障害、被虐待経験、未婚の単身家族・内縁者等による人間関係に問題を抱える家庭などの虐待に至るおそれのある要因等。

地域福祉活動から学ぶ

「ゼロ」か「100」かの発想の転換
その間には、「1」から「99」までの「99」通りの活動がある。

(1) サロンの設置数 67,903か所 (2016年1月現在)

(2) 対象

サロンの種類	%
高齢者	82
子育て家庭	6
身体・知的・精神障害	1
複合型	8
その他	3

(3) 回数 週1回以上開催は 53.3%

「サロン活動」の特徴

- (1) 地域交流の場：歩いて行ける地域の交流の場。
- (2) 住民が主役：お客さんはいない。みんなが参加者。
- (3) 出入り自由：気軽さが信条。
- (4) アイデア勝負：やりたいことをやろう。企画力、創造力を生かして地域の特性に合わせる。

地域資源と協働の可能性

- (1) 気づきをそのままにしない。思い立ったらやってみる。
 - (2) 日常の生活の延長で無理なく自然体で行う。
 - (3) 生活の動線に合わせる。
 - (4) 地域資源を活用する。(人、もの、金、とき、知らせ)
 - (5) 連携する。(合意形成を目指したプロセスを重視し、耕してきた土壤に種をまく)
 - (6) 継続的に計画的に行う。
- (キーワードは①小地域、②話せる、③活かす、④やりがい、⑤育てる、⑥協働)



参加者の声

- ① ユーモアたっぷりでポイントを押さえた講義で楽しく学ぶことができた。
- ② 「サロンに来た人をお客さん扱いにしないで」という言葉にハッとさせられた。
- ③ 「生活の動線に合わせた場所づくり」の話は新鮮だった。
- ④ 社協職員として、良いことはどんどん発信していかなければと思った。
- ⑤ 「100あれば100通りの活動」がある。できることをみんなで今後の活動を考えたい。